

(参考) 今後整備する掲載種の付加情報(参考情報)の例

ヒアリ <i>Solenopsis invicta</i>			
定着を予防する外来種（定着予防外来種）		侵入予防外来種	
定着段階	未定着	選定理由	I, III
法規制状況	2005 年に特定外来生物に指定	対策優先度の要件	
基本情報			
名称	別名：アカヒアリ 英名：red imported fire ant	 ©JWRC	
分類	昆虫綱 ハチ目 アリ科 ソレノプスィス（トフシアリ）属		
原産地	南アメリカ。		
移入分布	米国（1942 年）、オーストラリア（2001 年）、台湾（2004 年）、中国南部（2005 年）、マレーシア（2001 年）等に侵入、定着している。		
日本での分布	国内未定着。これまでに侵入事例の報告はないが、日本の気候では関東地方以西以南で定着可能と言われている。		
形態的特徴	体長 3～5mm。赤褐色で頭部は褐色。頭部頭盾の歯は 3 本。触角は 10 節で先端 2 節は棍棒状。腹柄は 2 節で、前伸腹節にトゲを持たない。複眼は 15 個以上の個眼で構成される。働きアリは大型でも巨頭化しない。（※同定マニュアルとのリンクを検討）		
生態的特徴	<生息環境> 裸地や芝生等の開けた環境に生息し、最大で直径 100cm、高さ 40cm ほどになるドーム状の特徴的なアリ塚を形成する。森林的な環境には進出しない。 <繁殖> 女王アリは 1 日に 2000 個もの卵を生産することができ、成熟したコロニーは 40 万頭を超える。単女王性のコロニーと多女王性のコロニーが存在する。 <食性> 節足動物、爬虫類、小型哺乳類。農作物やその種子も採食する。		
侵略性に関する情報			
生態系	高い採餌能力や防御物質の分泌、働きアリによる侵略等による他種のアリと競合して駆逐する。集団で攻撃して節足動物等の小動物を捕食する他、爬虫類、小型哺乳類を捕食したり、鳥類の営巣・雛の営巣に影響を及ぼす事例が報告されている。		
経済・産業	農作物やその種子も採食する。農地に営巣した場合には、刺咬被害は農作業の大きな妨げとなり、家畜への刺咬被害も起きている。		
人の生命・身体	働きアリが腹部に持つ毒針で刺されると激しい痛みを覚え、アルカロイド系の毒により発汗、激しい動悸、息苦しさを伴うアレルギー反応を引き起こす。重篤な場合は危篤、死亡に至る事例もあり注意が必要である。		
利用に関する情報			
利用状況	利用されていない。		
留意事項			

対策に関する情報	
防除方法	・餌剤の散布が最も効果的と考えられる。液剤の直接散布は即効性があるが、巣の中に生息している女王アリをはじめとする多くのアリ個体に浸透させるのは困難である。根絶を目標に防除するには餌剤を与えて、コロニー単位での防除を考慮することが肝要。 ・侵入経路は明らかではないものの、海外の事例では、物資に随伴した非意図的な導入と考えられ、米国への侵入は船荷への随伴、台湾では航空機による侵入が推測されていることから、港湾や空港での監視が重要である。 ・侵入後の分布拡大経路としては、米国では土砂、園芸植物、苗木、芝、土木機械、農産物、廃棄物等の移動への非意図的な随伴による分布拡大の可能性が指摘されている。また、洪水時等に河川や湖で水面に浮遊して拡散することも報告されていることからこれらについての留意も必要である。
対策事例	ニュージーランドでは侵入初期の発見・防除で侵入防止を達成している。 IUCN の ISSG のデータベースで各国の防除に関する情報のリンクあり。 http://www.issg.org/database/species/management_info.asp?si=77&fr=1&sts=&lang=EN すでに定着したオーストラリア、アメリカ合衆国、台湾などでは防除に膨大な国費を要している。
参考文献	
東正剛他 2008 ヒアリの生物学ー行動生態と分子基盤ー. 海游舎. 206pp. 自然環境研究センター（編著）（2008）決定版 日本の外来生物. 平凡社, 東京. Tschinkel, WR 2006 The Fire Ants. Belnap Press of Harvard University Press. 752pp.	